

在外校における「主体的、対話的で深い学び」

「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の**一体化**を  
目指した授業作りの工夫と取り組み

# 「個別最適な学び」の一例

中学部国語科「説明文単元」・小学部国語「物語単元」

- ・ 海外生（在外生）の特性
- ・ 教科横断的な活動への発展
- ・ 日米間の価値観、多様性の許容

# 中学部一年

教科：光村国語 「大根は大きな根？」

単元目標：

a: 「問い」と「その答え」からなる文章の構成を理解する。

b: 本文中で比較がどのように使われているかを確認する。語句「一方」「これに対して」など。

c: 比較対象それぞれを読み取り、明確にする。

比較対象： 大根の上の方（胚軸）甘みがある。

大根の下の方（主根）辛みがある。

なぜ味が違うのか理解し、それぞれの味の違いを利用した食べ方（工夫）があることを理解する。

工夫、留意点

科学的読みものは難しく感じるので、教科書の絵を写し取ったり、写真などをパワーポイントで紹介し視覚的に理解しやすくする。大根を実際に観察する。

味の違いをどのように調べたらよいか問いかけ、実際に授業で大根おろし2種類作り皆で試食する。

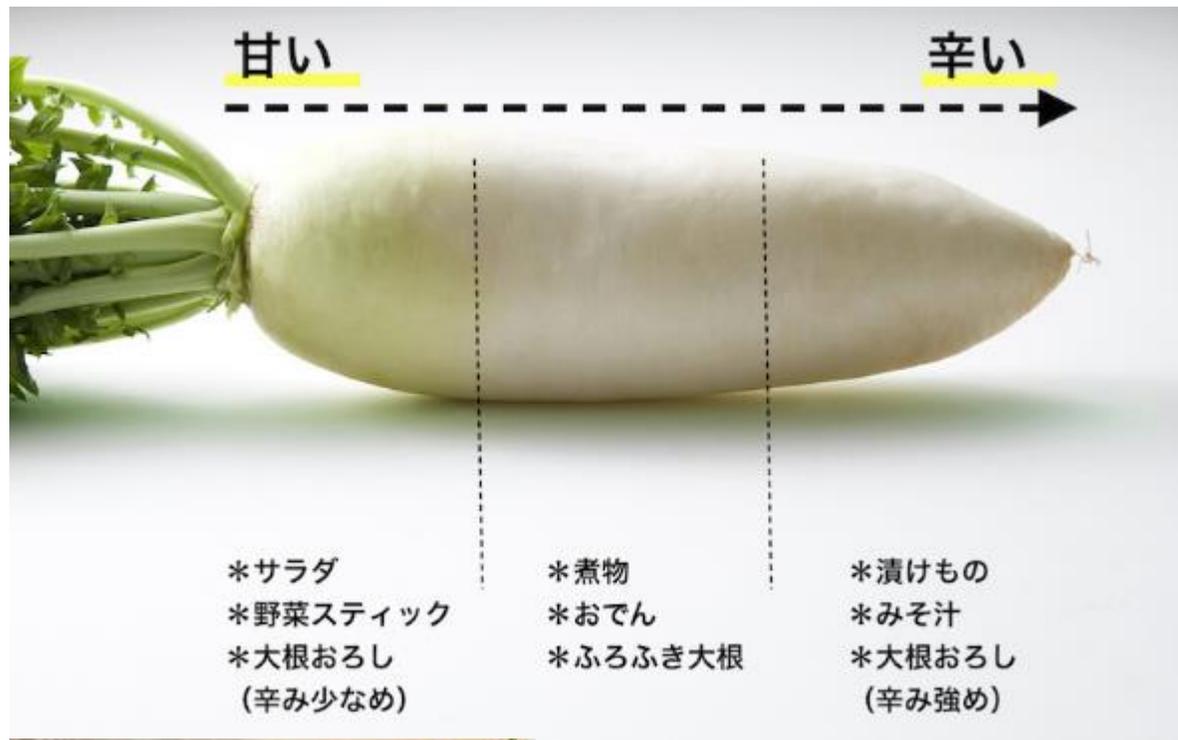
実験のレポートを作成する。（実験の目的、予想、結果、考察など）

# 中学部一年 国語

大根は大きな根？

稲垣 栄洋





**ダイコン** (大根、学名 : *Raphanus sativus* var. *hortensis*) は、アブラナ科ダイコン属の越年草で、野菜として広く栽培される。

地中海または中央アジアの地域が原産といわれており、日本、中国、ヨーロッパなど各地で主に肥大した根を食用とするほか、葉も食材となり<sup>[4]</sup>、種子から油を採ることもある。大根 (根茎部) は、約95%が水分、淡色野菜でもある。多くの品種があり、根の皮を剥かないですりおろしたものであればビタミンC、カリウム、食物繊維を豊富に含む

# ダイコンは大きな根？

稲垣 栄洋

器官：生物体を型作っている各部分。

## 初め

① 私たちは、毎日いろいろな種類の野菜を食べています。野菜は植物ですから、根や葉、茎、花、実などの器官からできています。例えば、キャベツやレタスなら葉の部分を食べていますし、トマトやナスなら実の部分を食べています。

## 問い1

② それでは、私たちが普段食べているダイコンの白い部分はどの器官なのでしょう。漢字で「大根」と書くくらいですから、根のように思うかもしれませんが、そんなに単純ではありません。

③ その疑問に答えるために、ダイコンの芽であるカイワレダイコンを見ながら考えてみます。カイワレダイコンは、双葉と根、その間に伸びた胚軸とよばれる茎から成り立っています。根の部分には、種から長く伸びた主根と、主根から生えている細かいひげの

ような側根があります。

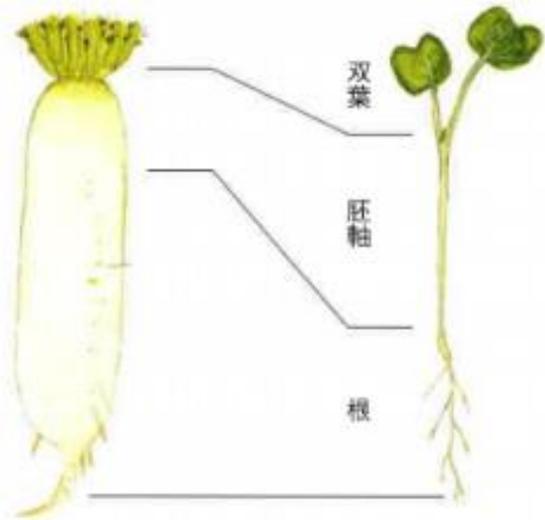
④ これに対して、私たちが食べるダイコンをよく見てみると、下のほうに細かい側根が付いたり、側根の付いていた跡に穴が空いていたりするのがわかります。ダイコンの下のほうは主根が太ってきているのです。いっぽう、ダイコンの上のほうを見ると、側根がなく、すべすべしています。この上の部分は、根ではなく胚軸が太ったものです。つまり、ダイコンの白い部分は、根と胚軸の二つの器官から成っているのです。

## 問い2

⑤ この二つの器官は、じつは味も違ってきます。なぜ、違っているのでしょうか。

## 問い2答え

⑥ 胚軸の部分は水分が多く、甘みがあるのが特徴です。胚軸は、地下の根で吸収した水分を地上の葉などに送り、葉で作られた糖分などの栄養分



成分.. 物を作る際に元となるもの  
細胞.. 生物体を構成するもの

## 問い2 答え ⑥~⑧

を根に送る役割をしているからです。

⑦ **いっぽう、根の部分は辛いのが特徴です。**ダイコンは下にいくほど辛みが増していきます。ダイコンのいちばん上の部分と、いちばん下の部分を比較すると、下のほうが十倍も辛み成分が多いのです。ここには、植物の知恵ともいえる理由がかくされています。

⑧ 根には、葉で作られた栄養分が豊富に運ばれてきます。これは、いずれ花をさかせる時期に使う大切な栄養分なので、土の中の虫に食べられては困ります。そこで、虫の害から身を守るため、辛み成分をたくわえているのです。ダイコンの辛み成分は、普段は細胞の中にありますが、虫にかじられて細胞が破壊されると、化学反応を起こして、辛みを発揮するような仕組みになっています。そのため、たくさんの細胞が壊れるほど辛みが増すことになります。

⑨ これらの特徴を活用して調理すると、ダイコンのさまざまな味を引き出すことができます。例えば、大根下ろしを作るときに、辛いのが好きな人は下の部分が向いていますし、辛いのが苦手な人は上の部分を使うと辛みの少ない大根下ろしを作ることができます。また、ダイコンを力強く直線的に下ろすと、細胞が破壊さ

れて、より辛みが増します。逆に、円をえがくようにやさしく下ろせば、破壊される細胞が少なくなり、辛みが抑えられるのです。

⑩ **このように**、ダイコンの白い部分は異なる器官から成っていて、器官の働きによって味も違うのです。普段何気なく食べているダイコンも、植物として観察してみると興味深い発見があります。他の野菜はどうでしょうか。いろいろと調べてみると、これまで気づかなかった野菜の新しい魅力が見えてくるかもしれません。

## まとめ

ダイコンは大きな根？

段落構成

① 野菜について

問  
い

② ダイコンの白い部分はどの器官なのか？

答  
え ③ ④

③ カイワレ大根を例に器官の具体的な説明

\* 双葉、**胚軸**、根

\* 種から長く伸びた**主根**

\* 主根から生えているひげのような**側根**

④ ダイコンの白い部分は根と**胚軸**（食べるところ）



ダイコンの下の方 **根** || 太った**主根**と**側根**  
ダイコンの上の方 **胚軸** すすすべしている

## 段落構成

問い

⑤ 二つの器官の味の違い？

答え

⑥ 胚軸水分や糖分が多い、栄養分を送るので  
味は甘い

⑦ 根植物の知恵  
味は辛い

⑧ 辛い理由は栄養分を守るため。  
細胞が壊れるほど辛みが増す。

⑨ 甘みと辛みを調理に活用。

大根おろし \*下の部分は辛い。  
\*上の部分は辛みが少ない。

調理方法 \*力強く直線的に下す。辛い  
\*円を描く 辛みが少ない。

⑩ 野菜の魅力のまとめ

教科書から読み取ろう

大根の胚軸と根

## 胚軸

特徴 水分が多く甘みがある。

## 役割

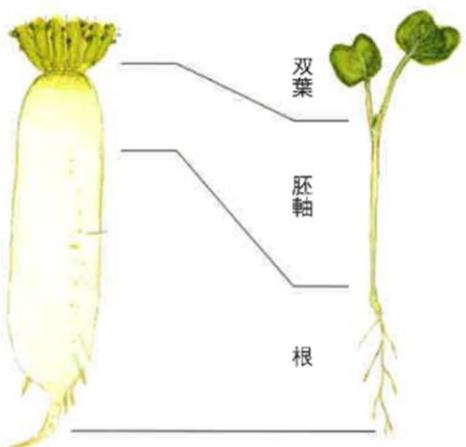
根で水分を吸収した水分を葉に送り根に栄養を与える。

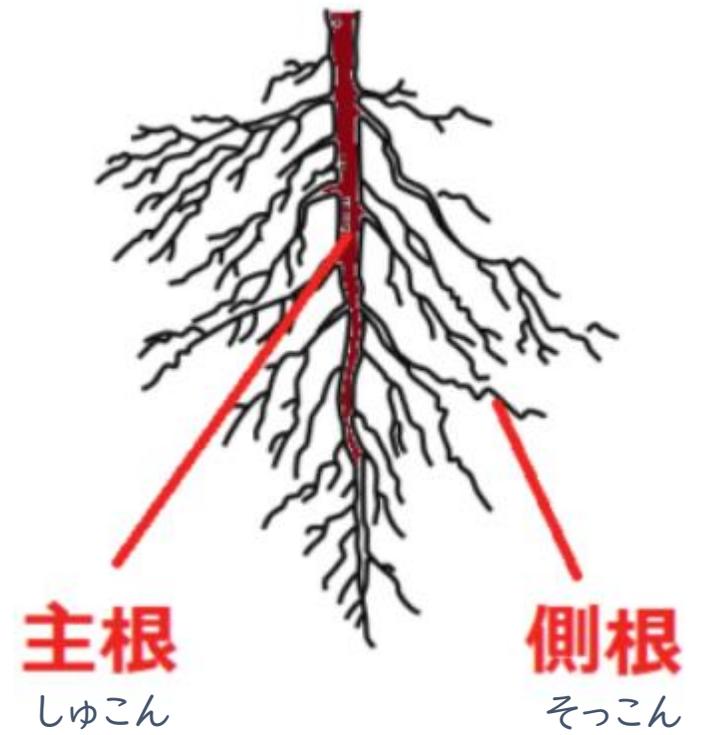
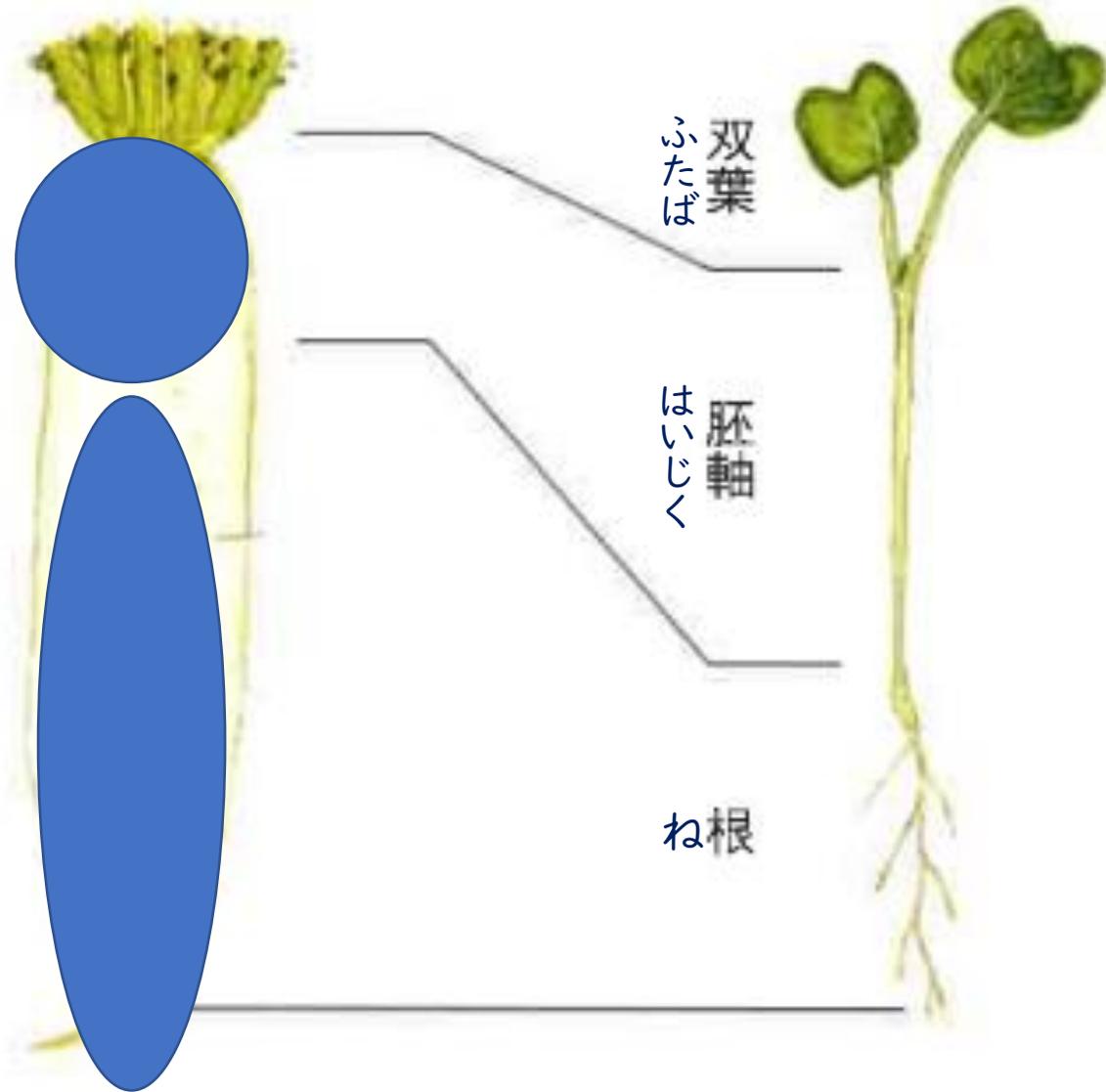
## 根

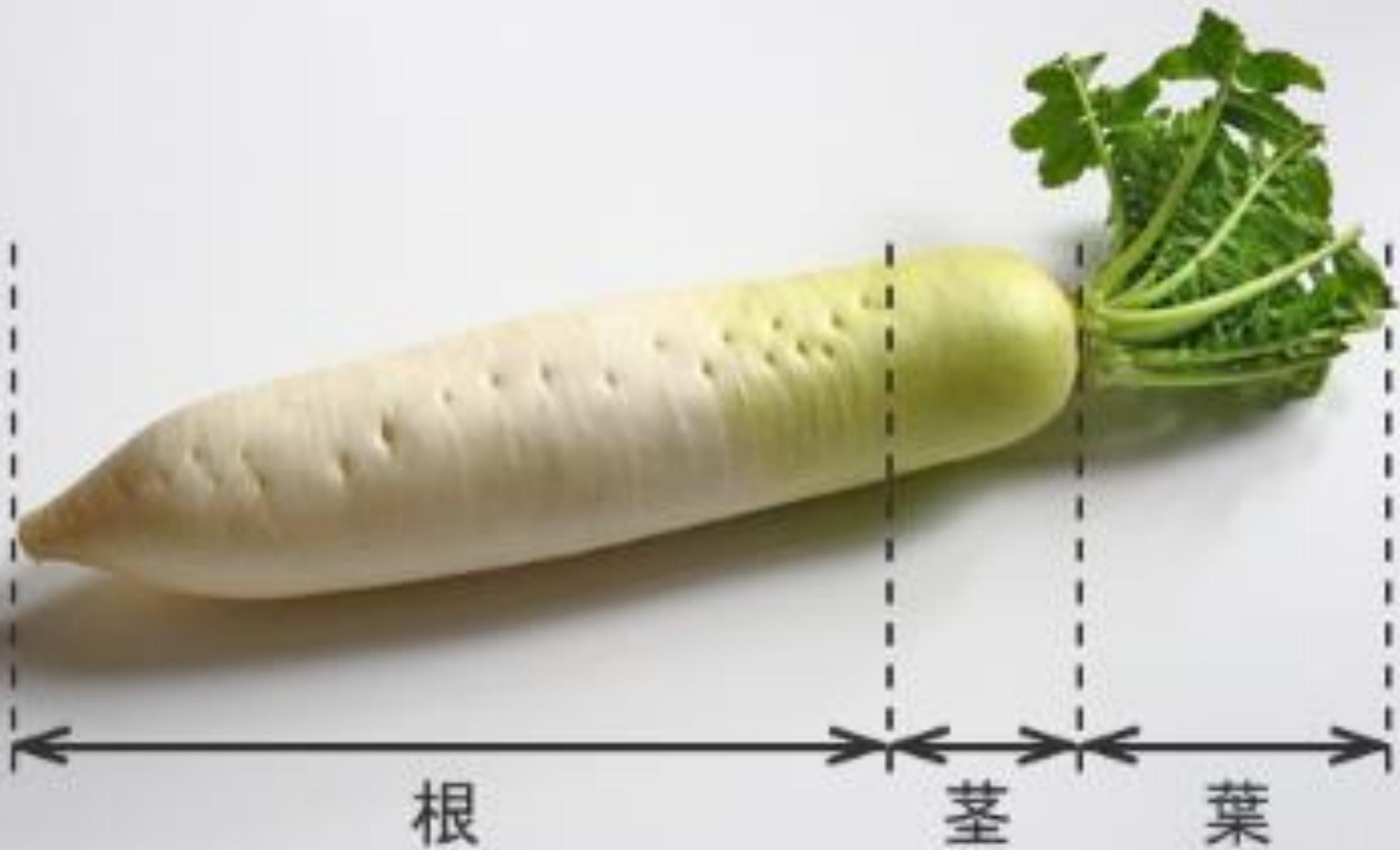
特徴 辛いのが特徴です。

## 役割

虫などに食われて細胞が破壊されると科学反応で辛くなります。虫に食べられない。









レポートを書こう

「題名」

ダイコンおろし

## 一・実験目的

大根の辛さを比べる実験

大根の胚軸の部分を円を描くようにおろす。

大根の根の部分を直線的におろして、

二つの味を比べる。

二・予想 根は十倍辛い。上の方が甘くて、

下の方が辛い。

三・結果 辛さの違いがあった。

四・考察（予想と同じ、違う場合に考えたこと。）

五・発展（他の根菜についての仮定推察）

# 国語科説明文 理科の実験レポートの書き方へ

## 生徒の実態

大根になじみのない生徒が多く、大根おろしを食した経験がない生徒も。  
。 現物を見て、実際に味を比べることで教科書の内容理解が深まる。

発展：この実験をきっかけに他の実験に対しても興味を持ち、

休み時間に、別の実験を生徒主体で計画し行うことになった。

予想と結果の違いに対し、レポートの考察ではなぜうまくできなかったのか調べ、反省点、改良点をまとめていた。

レポートの構成（実験目的、予想、結果、考察）を考えて、書き進めることに抵抗がなかった。

## 「個別最適な学び」

- 授業内で先に課題を終わらせた生徒には小単元の別の課題を与える。
- 基本的には、一人ずつ順番に音読するが、段落ごとと限定せず、読みたい児童には区切りの良いところまで読んでもらう。（読む力のある児童の特徴を生かすことで、授業も効率よくなる。）
- 児童の意欲に耳を傾け、学活の時間を活用して、自由研究課題の発表を取り入れる。自由研究では自分の興味のあることを調べ、ノートにまとめたことや、パワーポイントを使った発表をした。\*  
パワーポイント添付。日本語力の向上、知識の共有。
- 欠席や時間内に書き写せなかった板書は家庭学習としてPDFファイルにして家庭学習が出来るように送る。
- 漢字テストで解答することが出来なかった問題は課題として家庭で練習すること。
- 原稿の下書きはワードなどを利用し、訂正や構成の変更など柔軟に変更できるようにする。

## 「協働的な学び」

- ノートの文字や段落の使い方、丁寧な作業の進め方、まとまりのある文章を書く力、漢字に強いなど、友人の良い面を探し、認め合う。
- 漢字の練習方法について、それぞれのやり方を共有し、役立てる。

# 小学部四年

教科—4年生国語「ごんぎつね」

単元目標—「気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう」  
気持ちを表す言葉や、情景の描かれ方に気を付けよう  
物語について話し合い、考えを深めよう

授業の工夫または留意した点

話の結末が、「ごんぎつね」が「兵十」に銃で撃たれる、というショッキングな内容でアメリカの文化では理解されにくい為、まず、結末部分はあまり強い印象を生徒に与えないよう配慮した。

順を追って、ごんの性格や行動、兵十に対する思い、兵十の気持ちを細かに浮き上がらせると共に、日本の風土風習、物語の背景を時間を掛け丁寧に説明。

また、この課における**日本的な価値観とアメリカの価値観との違い**にも言及。

小四 国語

ごんぎつね

新美南吉 作



新出漢字

- 変化 (へんか)
- 菜種 な (たね)
- 百姓家 ひやくしやう (や)
- ふり続く (つづ)
- 小川 (お) がわ
- ふみ折る (お)
- 積む (つ)
- 昼飯 ひる (めし)
- 松たけ (まつ)
- 不思議 (ふしぎ)
- 差す (さ)
- お念仏 (ねん) ぶつ
- 連れ立つ (つ) れ
- 結末 (けつまつ)
- 変わる (か) わる

# 「ごんぎつね」の作者

新美南吉は今から約百十年前に今の愛知県半田市に生まれました。小さい時に母をなくし、さみしい子供時代をおくり、体も弱く、初めて童話集を出した次の年に二十九歳でこの世をさりました。

その一方、何人もの文学の先生、友人、小学校の教え子たちなど多くの出会いにもめぐまれました。南吉がその短い一生に数多くの名作を残すことができた背景には、こうした人々の支えがあったのです。

## 新美南吉の生涯

### プロフィール

新美南吉（にいみなんきち）

1913年（大正2）7月30日～

1943年（昭和18）3月22日

愛知県知多郡半田町（現在の半田市）出身

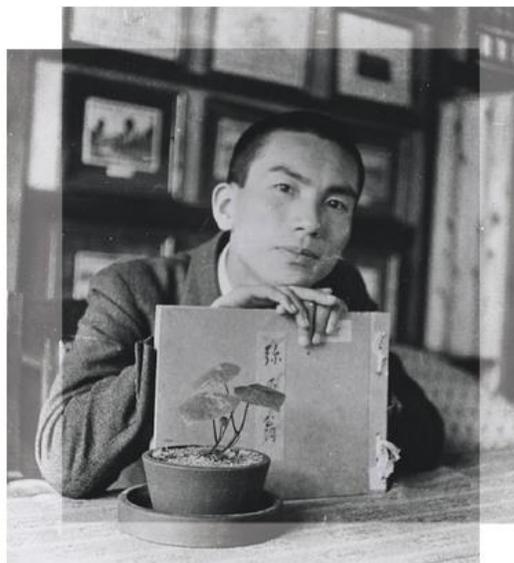
児童文学者

東京外国語学校英語部文科卒業

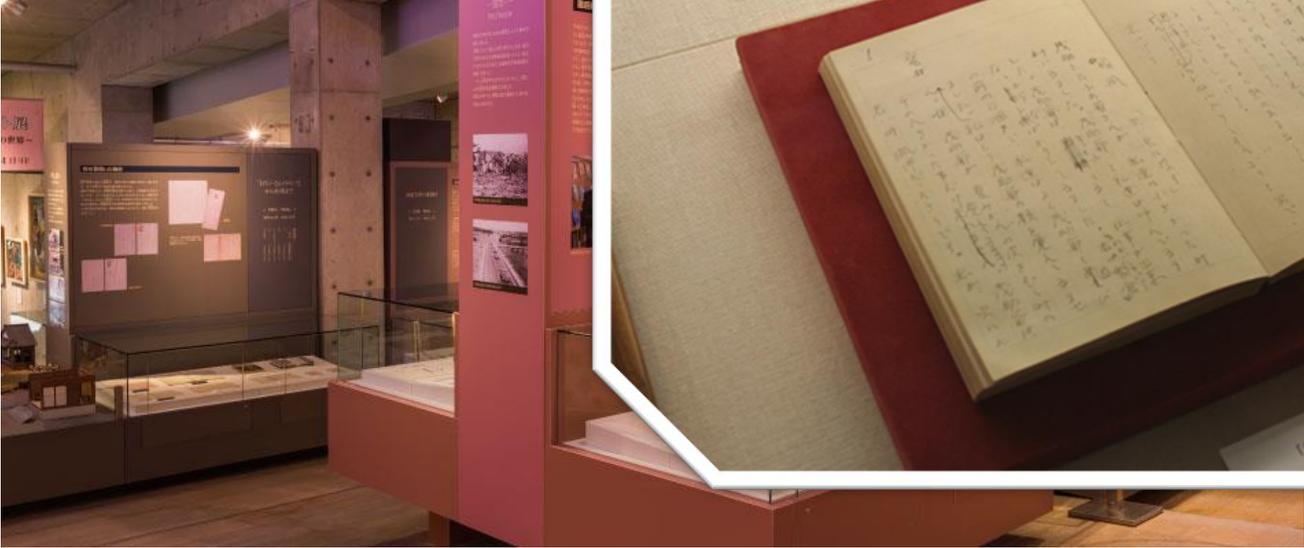
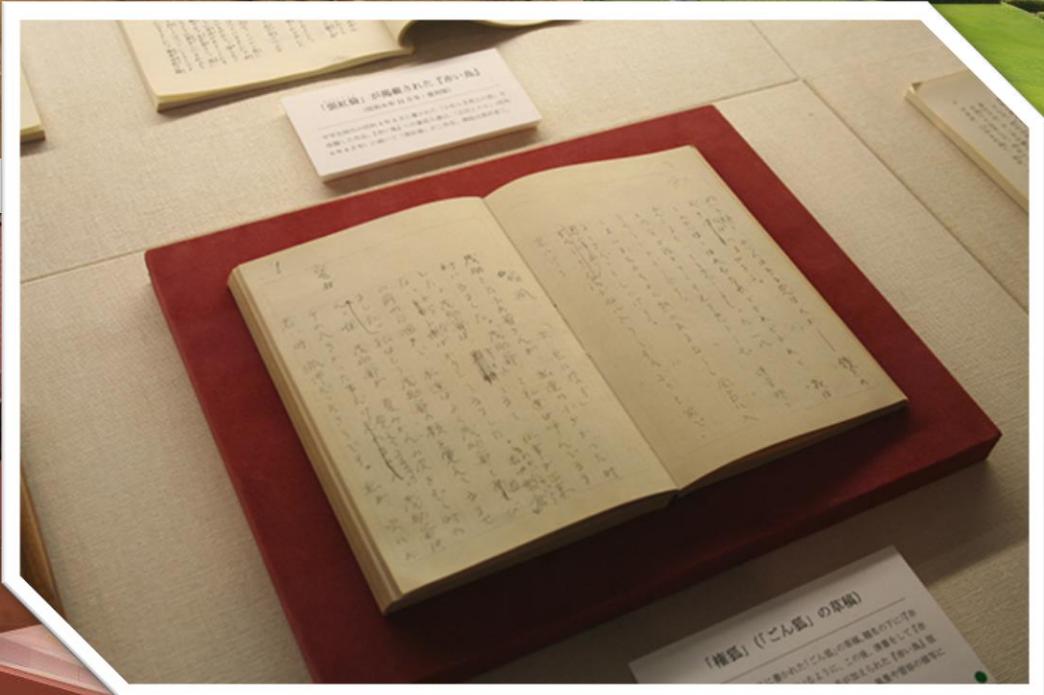
本名：新美正八（にいみしょうはち）

代表作：「ごんぎつね」「手袋を買いに」「おじいさんのランプ」「牛をつないだ橋の木」「花のき村と盗人たち」

「久助君の話」「でんでんむしのかなしみ」他



# 新見南吉記念館 愛知県半田市





気持ちの変化を読み、  
考えたことを話し合おう

## ごんぎつね

### 1

この物語には、小ぎつねの「ごん」が出てきます。「ごん」は、どんなきつねでしょうか。そして、「ごん」には、どんなことが起こるのでしょうか。

#### これまでの学習



場面と場面のつながりを考える

(白いぼうし)……………

上 28 ページ



特別な言葉に着目する(一つの花)……………

上 80 ページ

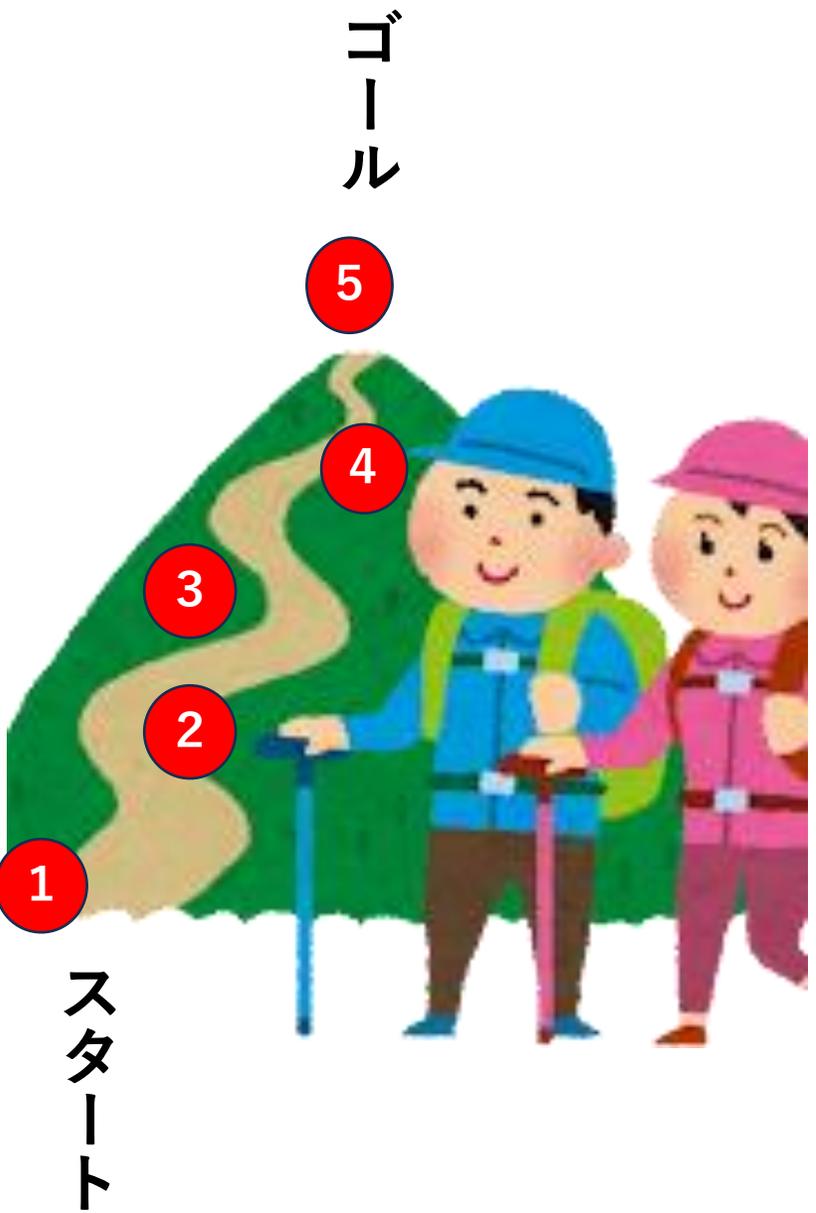


# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

気持ちの変化を読み、考えたことをしよう  
かいしよう。

- 1 いたずらをするごんの気持ちを読み取る。
- 2 そう式を目にしたごんの気持ちを読み取る。
- 3 つぐないをしに行くごんの気持ちを読み取る。
- 4 兵十と加助の話聞くごんの気持ちを読み取る。
- 5 ごんのつぐないの気持ちは兵十にとどいたのかを考える。





# ごんぎつね

これは、わたしが小さいときに、村の茂平もへいというおじいさんから聞いたお話です。

昔は、わたしたちの村の近くの中山なかやまという所に、小さなお城があって、中山様というおとの様がおられたそうです。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっばいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりしました。畑へ入っていもをほり散らしたり、菜種がらのほしてあるのへ火をつけたり、百姓家しやうやのうら手うらでにつるしてあるとんがらしとんがらしをむしり取っていった

## 菜の花



## 菜種がら

## 菜の花のたね



## とうがらし



新美南吉にいみなきち作

かすや昌宏まさひろ 絵



り、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました。

雨があがると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました。

ごんは、村の小川のつみまで出てきました。あたりのすすきのほには、まだ雨のしずくが光っていました。川は、いつもは水が少ないのですが、三日もの雨で、水がどっとまっていました。ただのときは水につかることのない、川べりのすすきやはぎのかぶが、黄色くにごった水に横だおしに

ふり続く

●小川

はちまき



なって、もまれていきます。ごんは、川下の方へと、ぬかるみ道を歩いていきました。ふと見ると、川の中に人がいて、何かやっています。ごんは、見つからないように、そうつと草の深い所へ歩きよって、そこからじつとのぞいてみました。

「兵十だ」と、ごんは思いました。兵十は、ぼろぼろの黒い着物をまくし上げて、こしのところまで水にひたりながら、魚をとるはりきりというあみをゆすぶっていました。はちまきをした顔の横っちょうに、円いはぎの葉が一まい、大きなほくらみたいにへばりついていました。しばらくすると、兵十は、はりきりあみ

はぎの花と

葉



はりきりあみ





うなぎ

のいちばん後ろのふくろのようになったところを、水の中から持ち上げました。その中には、しばの根や、草の葉や、くさった木切れなどが、ごちゃごちゃ入っていました。でも、ところどころ、白い物がきらきら光っています。それは、太いうなぎのはらや、大きなきすのはらでした。兵十は、びくの中へ、そのうなぎやきすを、ごみといっしょにぶちこみました。そして、また、ふくろの口をしばって、水の中へ入れました。

兵十は、それから、びくを持って川から上がり、びくを土手に置いといて、何をさがしにか、川上の方へかけていきました。

10

5



きす  
ここでは、川魚のはらのこと。  
びく  
とった魚を入れておくかご。

兵十がいなくなると、ごんは、びよいと草の中から飛び出して、びくのそばへかけつけました。ちよいと、いたずらがしたくなったのです。ごんは、びくの中の魚をつかみ出しては、はりきりあみのかかっている所より下手の川の中を目がけて、ぼんぼん投げこみました。どの魚も、トボンと音を立てながら、にごった水の中へもぐりこみました。

いちばんしまいに、太いうなぎをつかみにかかりましたが、なにしろぬるぬるとすべりぬけるので、手ではつかめません。ごんは、じれったくなって、頭をびくの中につっこんで、うなぎの頭を口にくわえました。うなぎは、キュツと行って、ごんの首へまきつきました。そのとたんに兵十が、向こうから、

「うわあ、ぬすつとぎつねめ。」

とどなり立てました。ごんは、びっくりして飛び上がりました。うなぎをふりすててにげようとしたが、うなぎは、ごんの首にまきついたまはなれませぬ。ごんは、そのまま横っ飛びに飛び出して、一生けんめいに上げていきました。

ほらあなの近くのはんの木の下でふり返ってみましたが、兵十は追っかけては

来ませんでした。

ごんはほっとして、うなぎの頭をかみくだき、やっと外して、あなの外の草の葉の上のせておきました。

# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

気持ちの変化を読み、考えたことをしよう  
かいしよう。

1

いたずらをするごんの気持ちを読み取る。

2

そう式を目にしたごんの気持ちを読み取る。

3

つぐないをしに行くごんの気持ちを読み取る。

4

兵十と加助の話聞くごんの気持ちを読み取る。

5

ごんのつぐないの気持ちは兵十にとどいたのかを考  
える。



スタート

# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

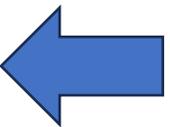
気持ちの変化を読み、考えたことをしようかいしよう。

## 一つ目の学習

① いたずらをするごんの気持ちを読み取る。

### 一の場面

- ・ごんはどんなきつねなのかを考える。
- ・ごんはなぜいたずらをするのかを考える。



ごんのようにすがわかるところに線をひきましょう。

情景や場面のようすがわかるところに線をひきましょう。

## ごんぎつね

ごんはどんなきつねなのか理由もあ  
わせてを考えましょう。

ごんはなぜいたずらをしたのでしょ  
うか。

もし、あなたがごんだったら、同じ  
ようにいたずらをすると思いますか。

# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

気持ちの変化を読み、考えたことをしよう  
かいしよう。

- 1 いたずらをするごんの気持ちを読み取る。
- 2 そう式を目にしたごんの気持ちを読み取る。
- 3 つぐないをしに行くごんの気持ちを読み取る。
- 4 兵十と加助の話聞くごんの気持ちを読み取る。
- 5 ごんのつぐないの気持ちは兵十にとどいたのかを考える。





木いちじくの



十日ほどたって、ごんが弥助やすけという  
 お百姓のうちのうらを通りかかります  
 と、そのいちじくの木にかけて、弥  
 助の家内が、お齒黒をつけていました。  
 かじ屋の新兵衛しんべゑのうちのうらを通ると、  
 新兵衛の家内が、かみをすいていまし  
 た。ごんは、「ふふん、村に何かある  
 んだな。」と思いました。「なんだらう、  
 秋祭りかな。祭りなら、たいこや笛の  
 音がしそうなものだ。それにだいいち、

2

10



お齒黒

5

家内

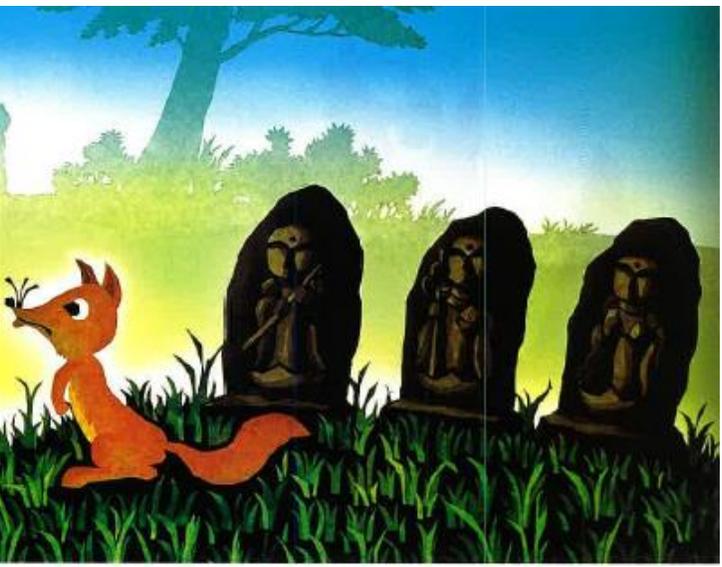
自分の妻つまをよぶ言  
 方の一つ。ここでは、  
 弥助の妻のこと。

お齒黒

昔、けっこんした女  
 の人は、歯を黒くそ  
 めた。そのために  
 使ったもの。



ひが  
ん花



した。いいお天気で、遠く向こうには、お城の屋根がわらが光っています。墓地には、ひがん花が、赤いきれのようにさき続いています。と、村の方から、カーン、カーンと、かねが鳴ってきました。そうしきの出る合図です。

やがて、白い着物を着たそれつもの者たちがやって来るのが、ちらちら見え始めました。話し声も近くなりました。それつは、墓地へ入ってきました。人々が通ったあとには、ひがん花がふみ折られていました。

ごんは、のび上がって見ました。兵十が、白いかみしもを着けて、いはいをささげています。いつもは、赤いさつまいもみたい

かみしも  
上下でひとそろいになった、昔の正式なふくそう。ここでは、そうしきのとき、男の人が着る白いかみしものこと。

ふみ折る<sup>お</sup>

お宮にのぼりが立つはずだが。  
こんなことを考えながらやって来ますと、いつのまにか、表に赤い井戸のある兵十のうちの前へ来ました。その小さなこわれかけた家の中には、おおせいの人が集まっています。よそ行きを着物を着て、こしに手ぬぐいをさげたりした女たちが、表のかまどで火をたいています。大きななべの中では、何かぐずぐずにえています。

「ああ、そうしきだ。」と、ごんは思いました。「兵十のうちのだれが死んだんだ

し、ごんは、村の墓地へんのかげにかくれていま

六地藏  
墓地や道はたなどに、六体ならべてまつった地藏。

井戸 (いど)



のぼり





かまど



六地藏  
(ろくじ  
ぞう)

# 六地藏について





仮位牌

いはい



本位牌



な元気のいい顔が、今日はなんだかしおれていました。  
 「ははん、死んだのは、兵十のおっかあだ。」ごんは、そう思いながら頭を引っこめました。  
 そのばん、ごんは、あなの中で考えました。「兵十のおっかあは、どこについていて、うなぎが食べたいと言ったにちがいない。それで、兵十が、はりきりあみを持ち出したんだ。ところが、わしがいたずらをして、うなぎを取ってきてしまった。だから、兵十は、おっかあにうなぎを食べさせることができなかった。そのまま、おっかあは、死んじゃったにちがいない。ああ、うなぎが食べたい、うなぎが食べたいと思いつつ死んだんだろう。ちよつ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」

10

5

おっかあ  
お母さん。

ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

気持ちの変化を読み、考えたことをしようかいしよう。

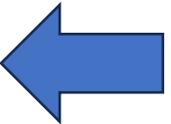
二つ目の学習

2

そう式を目にしたごんの気持ちを読み取る。

二の場面

- ・ だれのそう式なのか。
- ・ なぜなくなったのか。



兵十のようすがわかるところに線をひきましょう。

情景や場面のようすがわかるところに線をひきましょう。

## ごんぎつね

ごんはそう式を見たとき、どんな気持ちだったでしょうか。理由もあわせてを考えましょう。

あなの中でごんはどんなことを考えたのでしょうか。

もし、あなたがごんだったらどんなことを考えたでしょうか。

# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

気持ちの変化を読み、考えたことをしよう  
かいしよう。

- 1 いたずらをするごんの気持ちを読み取る。
- 2 そう式を目にしたごんの気持ちを読み取る。
- 3 つぐないをしに行くごんの気持ちを読み取る。
- 4 兵十と加助の話聞くごんの気持ちを読み取る。
- 5 ごんのつぐないの気持ちは兵十にとどいたのかを考える。



いわし



3

兵十が、赤い井戸のところまで麦をといっていました。

兵十は、今までおつかあと二人きりで、まずしくらしをしていたもので、おつかあが死んでしまったのは、もうひとりぼっちでした。「おれと同じ、ひとりぼ

積む

ちの兵十か。」こちらの物置の後ろから見ていたごんは、そう思いました。

ごんは、物置のそばをはなれて、向こうへ行きかけますと、どこかで、いわしを売る声がします。

「いわしの安売りだあい。生きのいい、いわしだあい。」

ごんは、そのいせいのいい声のする方へ走っていききました。と、弥助のおかみさんが、うら戸口から、「いわしをおくれ。」

と言いました。いわし売りは、いわしのかごを積んだ車を道ばたに置いて、ぴかぴか光るいわしを両手でつかんで、弥助のうちの中へ持って入りました。ごんは、そのすき間に、かごの中から五、六びきのいわしをつかみ出して、もと来た方へかけだしまし



た。そして、兵十のうちのうら口から、うちの中へいわしを投げこんで、あなへ向かってかけもどりました。とちゅうの坂の上でふり返ってみますと、兵十がまだ、井戸のところを表をといているのが小さく見えました。

ごんは、うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。  
次の日には、ごんは山でくりをど  
行きました。

うら口からのぞいてみますと、兵  
ぼんやりと考えこんでいました。変  
がついていきます。どうしたんだらう  
を言いました。

「いったい、だれが、いわしなんか  
おかげでおれは、ぬすびどと思わ  
れた。」

と、ぶつぶつ言っています。

くり



十のうちへ

持ったまま、

かすりきず

がひとり言

たんだらう。

めにあわさ

昼飯



ごんは、これはしまったと思いました。「かわ  
いそうに兵十は、いわし屋にぶんなぐられて、あ  
んなきずまでつけられたのか。」

ごんはこう思いながら、そつと物置の方へ回っ  
て、その入り口にくりを置いて帰りました。

次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っ  
ては兵十のうちへ持ってきてやりました。その次  
の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、  
持っていきました。

松たけ



松茸ごはん

# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

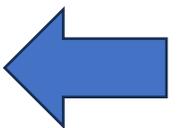
気持ちの変化を読み、考えたことをしようかいしよう。

## 三つ目の学習

- 3 つぐないをしに行くごんの気持ちを読み取る。

### 三の場面

- 文章からごんの気持ちの変化を読み取る。



ごんの気持ちの変化がわかるところに線をひきましよう。

情景や場面のようすがわかるところに線をひきましよう。

ごんぎつね

ごんはなぜ気づかれないようにつぐないをしたのでしょうか。

ごんのつぐないに対して、兵十はどんなことを考えているのかそうぞうしましょう。

もし、あなたがごんだったら、どうやってつぐないをしたいと思いますか。

# ごんぎつね

## 単元の目標 もくひょう

気持ちの変化を読み、考えたことをしよう  
かいしよう。

- 1 いたずらをするごんの気持ちを読み取る。
- 2 そう式を目にしたごんの気持ちを読み取る。
- 3 つぐないをしに行くごんの気持ちを読み取る。
- 4 兵十と加助の話聞くごんの気持ちを読み取る。
- 5 ごんのつぐないの気持ちは兵十にとどいたのかを考える。



月のいいばんでした。ごんは、ぶらぶら遊びに出かけました。中山様のお城の下を通って、少し行くと、細い道の向こうから、だれか来るようです。話し声が聞こえます。チンチロリン、チンチロリンと、松虫が鳴いています。

ごんは、道のかたがわにかくれて、じっとしていました。話し声は、だんだん

近くなりました。それは、兵十と、加助というお百姓でした。

「そうそう、なあ、加助。」

と、兵十が言いました。

「ああん。」

「おれあ、このごろ、とても不思議なことがあるんだ。」

「何が。」

「おっかあが死んでからは、だれだか知らんが、おれにくりや松たけなんかを、毎日日くれるんだよ。」

「ふうん、だれが。」

「それが分らんのだよ。おれの知らんうちに置いていくんだ。」

ごんは、二人の後をつけていきました。

「ほんとかい。」

「ほんとだとも。うそと思うなら、あした見に来いよ。そのくりを見せてやるよ。」

「へえ、変なこともあるもんだなあ。」

それなり、二人はだまって歩いていきました。

加助が、ひよいと後ろを見ました。ごんはびくっとして、小さくなって立ち止まりました。加助は、ごんには気がつかないで、そのままさっさと歩きました。吉兵衛というお百姓のうちまで来ると、二人はそこへ入っていきました。ボンボンボンと、木魚の音がしています。まどのしょうじに

不思議

○

○

○



木魚  
おきょうを読むときにたたく、木でできた道具。





し  
よ  
ら  
し



明かりが差していて、大きなぼうず頭がうつって、動いていました。ごんは、「お念仏があるんだな」と思いながら、井戸のそばにしゃがんでいました。しばらくすると、また三人ほど人が連れ立って、吉兵衛のうちへ入っていきました。

おきようを読む声が聞こえてきました。

5

ごんは、お念仏がすむまで、井戸のそばにしゃがんでいました。兵十と加助は、またいっしょに帰っていきます。ごんは、二人の話を聞こうと思って、ついいてきました。兵十のかけぼうしをふみふみ行きました。

お城の前まで来たとき、加助が言いだしました。

「さっきの話は、きつと、そりゃあ、神様のしわざだぞ。」

「えっ。」

と、兵十はびっくりして、加助の顔を見ました。

「おれはあれからずっと考えていたが、どうも、そりゃ、人間じゃない、神様だ。神様が、おまえがたった一人になったのをあわれに思わ（お思いになって）つしやって、いろんな

物をめぐんでくださるんだよ。」

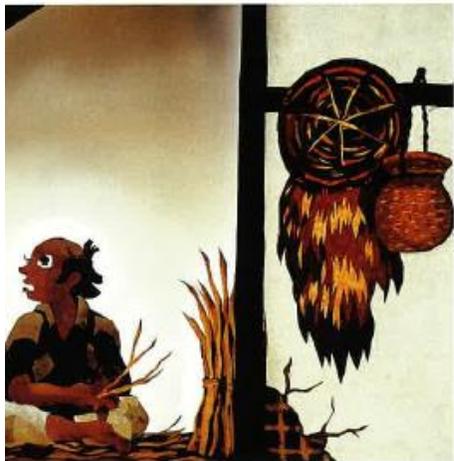
「そうかなあ。」

「そうだと。だから、毎日、神様にお礼を言うがいいよ。」

「うん。」

ごんは、「へえ、こいつはつまらないな」と思いました。

「おれがくりや松たけを持って行ってやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃあ、おれは引き合わないなあ。」



。差す

。お念仏

。お念仏

ここでは、おおせいの人が集まって念仏をとなえることをいう。

。連れ立つ

# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

気持ちの変化を読み、考えたことをしようかいしよう。

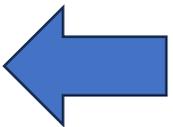
## 四つ目の学習

4

兵十と加助の話聞くごんの気持ちを  
読み取る。

### 四、五の場面

- ・ 兵十は何を加助に話したか。



二人の話聞くごんのようにわかるところに線を  
ひきましよう。

情景や場面のようすがわかるところに線をひきま  
しよう。

ごんぎつね

兵十はなぜ加助に相だんしたのでしょうか。理由も合わせて考えましょう。

ごんはなぜ二人について行ったのでしょうか。理由も合わせて考えましょう。

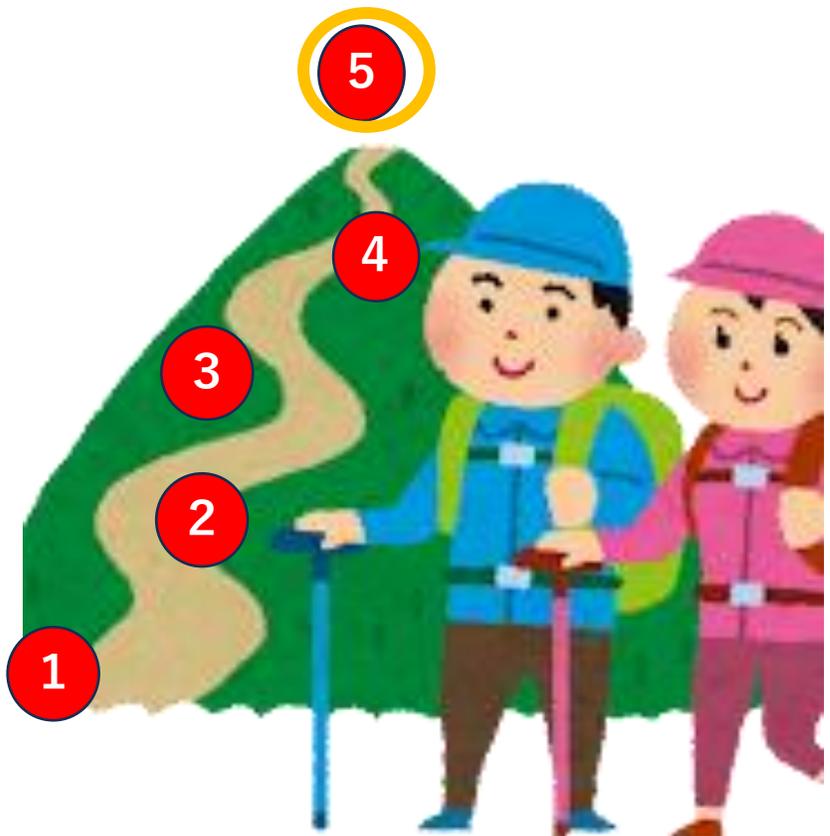
# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

気持ちの変化を読み、考えたことをしよう  
かいしよう。

- 1 いたずらをするごんの気持ちを読み取る。
- 2 そう式を目にしたごんの気持ちを読み取る。
- 3 つぐないをしに行くごんの気持ちを読み取る。
- 4 兵十と加助の話聞くごんの気持ちを読み取る。
- 5 **ごんのつぐないの気持ちは兵十にとどいたのかを考  
える。**

ゴール



物をめぐんでくださるんだよ。」

「そうかなあ。」

「そうだとも。だから、毎日、神様にお礼を言うがいいよ。」

「うん。」

ごんは、「へえ、こいつはつまらないな。」と思いました。  
「おれがくりや松たけを持って行ってやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃないか、おれは引き合わないなあ。」

6

その明るる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。兵十は、物置で縄をなっていました。それで、ごんは、うちのうら口から、こっそり中へ入りま

した。  
そのとき兵十は、ふと顔を上げました。と、きつねが





うちの中へ入ったてはありませんか。  
こないだ、うなぎをぬすみやがった  
あのごんぎつねめが、またいたずらを  
しに来たな。

「ようし。」

兵十は立ち上がって、なやにかけ  
てある火縄じゆうを取って、火葉を  
つめました。そして、足音をしのばせ  
て近よって、今、戸口を出ようとする  
ごんを、ドンとうちました。

ごんは、ばたりとたおれました。

兵十はかけよってきました。うちの  
中を見ると、土間にくりがかためて置  
いてあるのが、目につきました。

「おや。」

と、兵十はびっくりして、ごんに目を  
落としました。

「ごん、おまいだったのか、いつも、  
(おまこ)  
くりをくれたのは。」

ごんは、ぐったりと目をつぶったま  
ま、うなずきました。

兵十は、火縄じゆうをばたりと取り  
落としました。青いけむりが、まだ  
つつ口から細く出ていました。

10

5

火縄じゆう  
昔のてっぽう。縄に  
火をつけ、その火が  
火葉にうつってたま  
がうち出される。

新美 南吉

一九一三〜四三年、  
愛知県生まれ。作家、  
「おじいさんのラン  
プ」「花のき料と遊  
人たち」などの作品  
がある。

# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

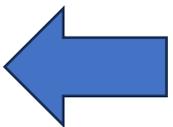
気持ちの変化を読み、考えたことをしようかいしよう。

## 五つ目の学習

5 ごんのつぐないの気持ちは兵十にとどいたのかを考える。

### 六の場面

- ・ 兵十は何を見たか。
- ・ 兵十がごんのことを表すときに使った言葉の変化。



兵十が目にしたものががわかるところに線をひきましよう。

情景や場面のようすがわかるところに線をひきましよう。

ごんぎつね

「ごん」に対する「兵十」の気持ち  
を考えましょう。

「兵十」に対する「ごん」の気持ち  
を考えましょう。

兵十が気づいたことを考えましょう。

## ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

気持ちの変化を読み、考えたことをしようかいしよう。

### まとめ

「ごん」と「兵十」の気持ちは、どのように変化したか考えましょう。

「兵十」に対する「ごん」の気持ちはどのように変化したか考えましょう。

「ごん」は、どうしていればこのよ  
うな最後にならずにすんだと思いま  
すか。

# ごんぎつね

この課の目標  
(もくひょう)

気持ちの変化を読み、考えたことをしようかいしよう。

まとめ

「ごんぎつね」の物語の続きを考え  
ましよう。

# 日本的な価値観とアメリカの価値観

本課のまとめとして、この物語の続き創作。クラス発表で共有。

「ごんは、兵十の懸命な介抱により一命をとりとめた。その後、二人は話し合い仲直りする。そしていつまでも仲の良い友達として暮らした。」

子どもたちは自分たちなりに納得のいく形でこの話を結んでいた。

アメリカの教育では、**誰とでも対等にコミュニケーションを図り、常にお互いに齟齬が生じないよう気を配ることを**子どもたちは教えられている。そのような価値観からも、行き違いを良しとせず、「話し合いをして、誤解を解き仲直りする」という意見は、とてものを得ていると逆に納得させられた。

他の子供たちの中にも、この発言に追随したり、そこからまた発展した話が出来上がるなどこの話の見方を深めることができた。

### ①「個別最適な学び」の場面

取り掛かりが遅いと思われる児童に対し、個別に、質問しながら考えを引き出し、数行の短い文章を口頭で話してもらうように指導した。

早くできた児童に対しては、ペア／グループを作り、話の内容を互いに質問させたり、見直し作業をさせた。

### ②「協働的な学び」の場面

最終的に、全体で各自の物語を発表した後、感想を伝えあったり、友達の発表で共感できる部分を話し合ったりした。

それにより、児童間で別の考えが出てたり、他の児童のアイデアを自分の話に取り入れるなど物語の世界を更に広げることができた。

# ① 「個別最適な学び」の一例

中学部国語科「説明文単元」・小学部国語「物語単元」

- 海外生（在外生）の特性
- 教科横断的な活動への発展
- 日米間の価値観、多様性の許容

# 「協働的な学び」の一例

小学部算数科 ・ 6年「データの調べかた」  
・ 4年「計算のきまりとくふう」

・ 解法のグループ活動 （共同作業化）

## 小学部6年算数 単元「データの調べ方」

### 授業の工夫または留意した点

教科書の内容を基に 自分のペースでグラフや表を作り問題に集中できるように、教科書の問題のほかに

子どもたちが興味を持つデータ資料を提示。

各々のペースで、理解を深めるというステップで、授業にメリハリが生まれた。

1月13日  
小6 算数

データの調べ方

次の□にあてはまる数を書きましょう。②(2)で、なすの重さをドットプロットに表しましょう。

2つの資料を、<sup>へいじんち</sup>平均値で比べられるようにしよう。

練習 →

集団のデータの平均を、集団のデータの<sup>へいじんち</sup>平均値といい、いくつかの集団のデータを比べるときに使うことがあります。

1 次の表は、1組と2組の学級菜園でとれたなすの重さを記録したものです。

1組の学級菜園でとれたなすの重さ(g)

① 66	② 57	③ 67	④ 73	⑤ 80
⑥ 68	⑦ 82	⑧ 60	⑨ 69	⑩ 67
⑪ 63	⑫ 74	⑬ 68	⑭ 64	⑮ 77

2組の学級菜園でとれたなすの重さ(g)

① 61	② 70	③ 65	④ 71	⑤ 74
⑥ 66	⑦ 72	⑧ 58	⑨ 84	⑩ 63
⑪ 71	⑫ 67			

重いなすがよくとれたといえるのは、どちらですか。なすの重さの平均値で比べましょう。

平均値のもとめかたは？



①「個別最適な学び」の場面  
具体的な児童生徒の活動

問題を解くのが早い生徒用に、プリントを用意し、発展問題にチャレンジ。

②「協働的な学び」の場面  
具体的な児童生徒の活動

- 1) 算数の問題の解き方を皆で考え、各自のアイデアを発表する。
- 2) 算数の問題を解く時に複数プロセスを踏む場合、一人で全過程を発表するのではなく、  
一人一過程ずつ発表していき、最終的な答えを出す。

例) 速さの問題

- 1人目：距離のキロメートルをメートルにする
- 2人目：かかった時間の2時間25分を145分にする
- 3人目：距離÷時間を計算する

など

# 小学部4年算数 単元「計算のきまりとくふう」

単元目標: 計算の順序に関する決まりを理解するとともに、適切に活用する。

授業の工夫:

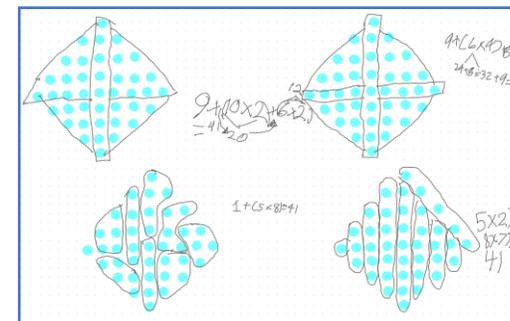
- ・ パワーポイントなどでスライドを作るのではなく、手書き部分と教科書部分を合わせたスライドを作り、授業中に書き込む場面を増やす。
- ・ 自分で、スライドに書き込めるようにする。
- ・ 周りの人との話し合いの時間を作る。

効果

- ・ 授業中にスライドに書き込む場面を増やしたことでスクリーンに注目しやすくなった。
- ・ スクリーン上に書き込んだ自分の考えを発表することで全員が発言することができた。
- ・ また、他の人の答えの導き方も知ることで、よりたくさんの方の考え方に気付くことができた。
- ・ 計算問題の中にも色分けや図形を使うことで興味を持ちやすかった。
- ・ 周りとは話し合う時間を作ることで、どの子も活動に参加できた。

②

- ①  $8 + 12 \times 5 = 8 + 60 = 68$  (25×4)
- ②  $200 - 150 \div 25 = 200 - 6 = 194$  (=100)
- ③  $300 - 25 \times 8 = 300 - 200 = 100$
- ④  $40 + 28 \div 4 = 40 + 7 = 47$
- ⑤  $70 + 30 \div 2 = 70 + 15 = 85$
- ⑥  $176 - 16 \times 3 = 176 - 48 = 128$
- ⑦  $92 + 8 \times 15 = 92 + 120 = 212$
- ⑧  $260 - 60 \div 5 = 260 - 12 = 248$



手始め

( ) を使った式の計算のきまり。

分配のきまり

$$(\square + \bigcirc) \times \triangle = \square \times \triangle + \bigcirc \times \triangle$$
$$(\square - \bigcirc) \times \triangle = \square \times \triangle - \bigcirc \times \triangle$$

④

- ①  $102 \times 25 = (100 + 2) \times 25$   
 $= 100 \times 25 + 2 \times 25$   
 $= 2500 + 50 = 2550$
- ②  $98 \times 6 = (100 - 2) \times 6$   
 $= 600 - 12$   
 $= 588$

## ①「個別最適な学び」の場面

問題を解くことに時間がかかる生徒には問題を指定し、数問は確実に解くことができるようにする。  
早く問題が終わってしまった生徒には追加の練習問題に取り組む。  
板書が間に合わない生徒がいる時には、待ち時間が発生することがないように  
スライドを授業後に送るようにした。

## ②「協働的な学び」の場面

図を使って自分がどのような考えでその式をたてたのかを発表する。  
応用問題では答えの導きかたを話し合っって考えを広げる。  
話し合いをする場面はあっても、全体的に不十分と感じているため、  
今後はさらに話し合いの場を設けて児童の力で問題解決できる活動を増やしたい。

四つ葉学院

実践報告

国語科 柳本祐佳子

未来を「生きる力」を育てる。



第一学年の教育目標

自ら学ぶ力、日本語学習の基礎を育てる。

授業において、教育目標、学習目標を達成するために。

- ・どの子も輝く場面、楽しく学ぶ環境を作る。
- ・視覚教材を多く取り入れる。
- ・四技能（読む、聞く、書く、話す）を効果的に授業に入れる。
- ・模範をしっかりと示す。（四技能）
- ・児童がわかる、できるを実感できるテンポのいい授業
- ・課題学習の有効利用

小学1年生

## 「個別最適な学び」と、「協働的な学び」

四つ葉学院 柳本祐佳子

小学校一年生 単元「しらせたいな みせたいな」

### ①「個別最適な学び」の場面

- ・教科書の音読
- ・漢字の練習、難語句の学習
- ・みんなに知らせたい身近にいる生き物、見つけたものを探す。
- ・絵を描き、絵から線を引き特徴をラベルづけする。
- ・聞く相手がわかりやすいような文章を考え書く。
- ・ひらがな、既習の漢字を正しく使い文を書く。
- ・丁寧に書く。
- ・作文用紙の使い方を知る。
- ・書いた文の音読を練習する。
- ・聞いている人が聞きやすいように読む工夫をする。

### ②「協働的な学び」の場面

- ・お互いの作品を紹介し合い、感想を伝え合う。
- ・他の児童の発表をしっかりと聞く。
- ・質問や感想などを考え、発表する。

# 中学生

## 中学生の教育目標

- ・居心地のいいクラス（個々を認めるクラス）
- ・主体的に学習に取り組む姿を育てる。
- ・国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。（学習指導要領 中一国）



未来を「生きる力」を育てる。

授業において、教育目標、学習目標を達成するために。

- ・「できる！わかる！楽しい！」達成感を感じる授業作り
- ・視覚教材を多く取り入れる。
- ・四技能（読む、聞く、書く、話す）を効果的に授業に入れる。
- ・効果的なノートの取り方の工夫
- ・生徒が活躍する場を多く作る。

## 中学二年生 単元「魅力を効果的に伝えよう」

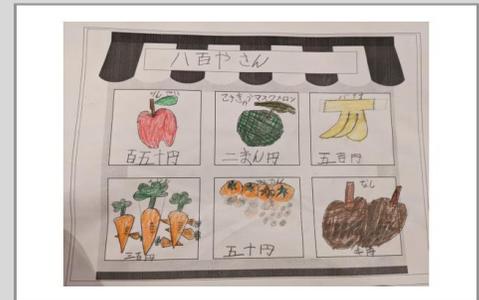
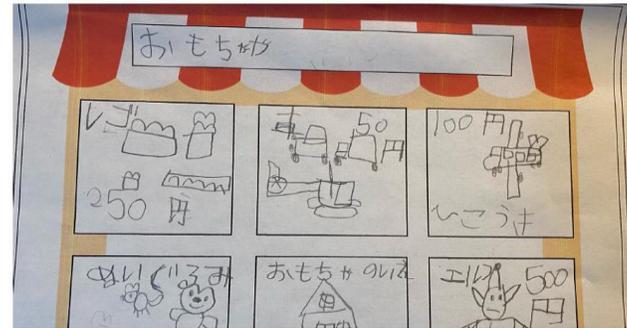
### ①「個別最適な学び」の場面

- ・教科書の音読
- ・漢字の練習、難語句の学習
- ・鑑賞文の書き方を学習
- ・好きな作品を選び鑑賞する。
- ・作品の魅力、特徴、感じたこと、想像したことなどをメモに書く・表現の効果を考える。（感じたことを表す言葉を参照する。）
- ・作品の魅力が伝わるような鑑賞文を書く。
- ・書いた文章を読む練習。
- ・聞き手が聞きやすいように工夫し鑑賞文を読む。

### ②「協働的な学び」の場面

- ・お互いの作品を紹介し合い、感想を伝え合う。
- ・他の生徒の発表をしっかりと聞く。
- ・質問や感想などを考え、発表する。
- ・同じ作品を鑑賞しても、着眼点、魅力の感じ方、表現の仕方が違うことを知る。
- ・他の生徒の表現方法を知り、今後の学習に生かそうと努力する。





## 「協働的な学び」の発展、拡大

班活動 → 学級 → 学年 → 全校 → 地域 → 他州他国へ

# 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 教育活動の目標

- 教科書を学ぶのではなく、教科書を通して**国際性**や、**個性**を育てること
- 学びへの意欲（興味、好奇心、体験）→ 学び方の探究